

上沼田神楽は主に「古事記」に伝わる物語を演じるもので、起源は享保2年(1717年)以前と言われている。”幸せを求め、災いを防ぐ”神楽として、近隣の地区の神社を奉納してまわることで、古くから地区住民の気持ちを和ませ、心を通わせる手段にもなっていた。

戦後、農村の過疎化が進み、伝承する若者もなく、一時は断絶の危機を迎える。しかし昭和52年、伝統文化を受け継ごうという地元住民の熱い想いにより上沼田神楽保存会を結成。昭和56年10月には錦町無形文化財の指定を受ける(平成18年3月20日の市町村村合併に伴い、岩国市指定無形民俗文化財に指定替)。

以後、県内外の神社への奉納や各地イベントへの参加、海外公演を行うなど、積極的な活動を行っている。



# 上沼田神楽保存会

